



日本ブラインドマラソン協会 JBMA 会報

発行所

特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目9番8号 本郷朝風ビル5F

ホームページ: <http://www.jbma.or.jp/>

TEL/FAX: 03-3814-3229 E-mail: info@jbma.or.jp

発行責任者: 澤木 啓祐 / 編集責任: 事務局

新年明けましておめでとうございます 幸多き輝かしい一年となりますようお祈り申し上げます

会長挨拶

羽毛田 信吾

会報『絆』第143号の発行に当たりご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が収束の気配を見せない年末年始となりましたが、会員の皆さまには健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は東京2020パラリンピックの延期を受け、協会にとっては大変厳しい対応を迫られる日々が続いた1年となりました。

協会活動の柱である研修・普及事業については、代々木公園での定例練習会や伴走研修会は、4月から9月まで中止となりました。10月に規模を縮小し、会員の皆様に限定して再開いたしました。感染の再拡大を受けて12月には再び中止を余儀なくされました。

例年静岡県掛川市で開催していた「伴走者養成・視覚障がい者マラソン研修会」は、開催地の方針により開催を延期し状況を見守っています(2021年1月20日現在)。その他、全国各地で開催している伴走研修会への支援についても、協力が難しい状況です。

大会開催事業では、大阪長居で開催を計画していた「全国視覚障がい者駅伝大会」は中止に、神宮外苑で開催予定の「JBMAユニファイドラン」は神宮での実施を断念して、会場を日産スタジアムに変更し、規模は小さくなったものの第38回大会を開催できたことは、一筋の光明であったとご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

コロナ禍は強化活動にも大きく影響しました。東京パラリンピックの開催延期による強化方針の大幅な変更はもちろん、予定していた合宿が実施できず、強化指定選手の多くが、移動制限や伴走者の不在などにより練習計画の変更を強いられる一年となりました。



会長 羽毛田 信吾

そのような社会情勢の中ですが、関係者のご努力により開催された競技会で、少ないチャンスを活かし、協会所属の選手の皆さんが素晴らしい成果を上げてくれました。なかでも、12月20日に開催された「第51回防府読売マラソン大会」での、道下選手の世界新記録と堀越選手のアジア新記録、トラック競技における和田・唐澤両選手のアジア記録の更新は、厳しい状況の中でも地道に努力を重ねられた成果として称賛に価すると思います。

また、昨年も協会の事業活動に対しまして、ご協賛企業・団体の皆さまをはじめ多方面から幅広いご支援、ご協力を頂戴いたしました。このような状況の中、変わらぬご支援をいただけたことに衷心より御礼申し上げます。

本年も、パラスポーツにとって大変厳しい状況が続くものと思われれますが、私たちは今できることに全力で向き合い、ブラインドマラソンの普及・発展への取り組みを継続し、ノーマライゼーション社会の実現に向けた努力を途切れさせないようにしなければなりません。

会員の皆さまはもちろんだ多くの支援者の皆さまにおかれまして、協会活動への変わらぬご指導ご鞭撻をお願いするとともに、皆さまにとって幸多き輝かしい一年となりますようお祈り申し上げます、ご挨拶いたします。

行事報告

第38回JBMAユニファイドラン

2020年12月13日、コロナ禍により大幅な変更を余儀なくされたものの、多くの皆さまのご理解とご支援を受け横浜市の日産スタジアムで「第38回JBMAユニファイドラン」を開催することができました。コロナ対策を徹底し、無事開催できたことは、視覚障がい者のスポーツ活動に今後の可能性を見出すことができたことと確信いたします。

幸い大会当日は好天に恵まれ、最高気温は14度を超える冬とは思えない暖かさの中でのレースとなりました。参加ランナーは80名（視覚障がい40名、知的障がい13名、一般27名）、伴走者は34名と、例年に比べれば大変少ない参加数でしたが、コロナ禍で活動の場を抑制されたうっ憤を晴らすかのように、皆さんが楽しそうに走っていらっしやうたことが印象的でした。横浜市直立特別支援学校のランニングクラブの皆さんは、「日頃の活動成果を発揮できる機会がようやく訪れた」と、日産スタジアムのトラックを駆け抜けていました。



10000mスタートの様子



5000mスタートの様子

第38回JBMAユニファイドラン結果

順位 / 記録 / 氏名(伴走者)

10000m

1位	0:36:06	池永 敦
2位	0:42:52	大岡 義博 (岡本 達明)
3位	0:45:33	堀田 正幸 (森 洋行)
4位	0:46:52	堀越 雅也 (齋藤 芳徳)
5位	0:49:22	中野 覚 (宮崎 眞理)
6位	0:50:59	八木 陽平 (斉藤 房善)
7位	0:51:02	小野 沙織 (奥山 吉秋)
8位	0:51:31	古村 法尾 (田村 卓)
9位	0:53:19	山内 太郎 (伊藤 順)
10位	0:53:25	小林 昭文 (井上 大斗)
11位	0:53:55	澤田 貴昭 (本間 欽也)
12位	0:55:31	奥原 修 (服田 亜樹)
13位	0:55:34	田中 和之 (後藤 元人)
14位	0:56:58	兼目 忍
15位	1:01:49	清水 佐和子 (山本 真士)

5000m

1位	0:18:23	大石 航翼
2位	0:19:48	村上 拓也 (阿部 拓也)
3位	0:22:48	小野寺 正 (瀬田 曜一)
4位	0:23:37	三上 直人 (塩野 正昭)
5位	0:24:19	青沼 城太郎 (立花 裕之)
6位	0:24:40	荒谷 健太 (濱田 耕司)
7位	0:25:43	加藤 育
8位	0:26:00	市川 絹子 (濱 吉宏)
9位	0:26:45	村上 寿好
10位	0:27:52	下田 智 (鈴木 信彦)
11位	0:28:46	小塚 啓輔 (伊藤 順)
12位	0:29:39	小堀 清房 (中島 俊光)
13位	0:29:40	東 公二
14位	0:29:59	椎原 直子 (後藤 和夫)
15位	0:31:43	古川 雅代 (杉田 将生)

16位	0:31:53	北本 理子 (野村 直子)
17位	0:34:12	ハッサン ローズィー 真里子
18位	0:34:30	清塚 恵利子 (長島 レイ子)
19位	0:34:47	高澤 節子 (山崎 ひろみ)
20位	0:35:07	伊藤 弓子 (伊藤 彰俊)
21位	0:37:22	平山 貴朗 (卯嶋 義司郎)
22位	0:38:51	田崎 昭夫
23位	0:40:26	村田 清司 (直井 誠)
24位	0:41:13	杉山 晴美 (原川 里衣)
25位	0:48:00	荒谷 惇子 (杉森 陽子)

視覚障がい者以外の皆さまの記録は協会ホームページでご覧ください。



歓喜のゴール！



感染防止対策の給水補助員

今大会の開催にあたっては、日本障がい者スポーツ協会他の策定した感染拡大予防ガイドラインに沿った様々なコロナ対策を行いました。「無観客」「参加人数の削減」「表彰及びセレモニーの廃止」「マスク着用」等、参加者の安全・安心を最優先に、1000m(2レース)と5000m(3レース)の2種目5レースを実施しました。参加者の皆さまには、多くの不便を伴う大会となりましたが、参加各位の積極的な協力により、滞りなく大会を終了することができました。

大会運営では、関東学生陸上競技連盟・小田原陸上競技協会・横浜市障がい者スポーツ指導者協議会他、多くの方々のご協力をいただき感謝申し上げます。

また、大会特別協賛の株式会社明治様と株式会社新昭和様をはじめ、日頃よりJBMAの活動をご支援いただいております多くの企業・団体の皆さまには、改めて厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの収束を願い、今秋には、神宮で皆さまに再会できることを楽しみに報告とさせていただきます。

防府読売マラソン

12月20日、山口県防府市にて「第51回防府読売マラソン・第21回日本視覚障がい者マラソン選手権大会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、全国各地のマラソン大会が中止となる中、防府市をはじめとする主催者の多大なる尽力のおかげで、開催するに至りました。

今大会では感染症対策の一環として、様々な取り組みが行われました。その一つが参加者の縮小です。例年は約3000名が参加しますが、今回は招待選手と実業団陸上競技連合登録者のエリート部門に約100名、一般部門は山口県民枠200名、防府市民枠100名の合計300名に、ブラインドランナーを加えた約400名がコロナ禍では初めてとなる全国的なマラソン大会に参加しました。その他にも、開催2週間前からの体調チェック、当日の検温、手指消毒などの予防対策が行われ、大会が運営されました。

12時02分、約400名のランナーが一斉にスタート。わずか10秒程で全員がスタートラインを通過し、改めて参加者が制限された中での大会であることを認識させられます。スタート時のコンディションは気温9℃、湿度36%、早朝から強風注意報が発令され、時折強風が吹きあられ、体感気温はより低く、手袋やアームウォーマー、ビニール袋を被るなど、各自防寒対策を行つてのレースとなりました。

厳しいコンディションにも拘らず、選手たちは好記録をマークしました。

T12クラス女子の道下美里選手（三井住友海上）が、自身がつつ世界記録を9秒更新し、2時間54分13秒で4年連続の優勝を果たしました。道下選手は2020年2月の別府大分毎日マラソンで世界記録をマークしており、2020年2度目の世界記録更新となりました。

男子ではT12クラスの堀越信司選手（NTT西日本）が2時間22分28秒の世界歴代3位。それまで岡村正広選手が持っていた2時間24分42秒の日本記録が9年ぶりに更新されました。

世界記録としては公認記録がなかったT13クラス女子では、松本光代選手（JBMA）が自己記録を7分余り更新する3時間13分10秒で、世界記録として認定されました。日本記録は17年前に西島美保子選手の3時間11分33秒で、今回はこの記録が目標となります。

選手たちは限られたチャンスを活かして記録を更新しました。

2021年9月、東京パラリンピックが開催されることを願いつつ、これからも挑戦を続けます！

大会結果

順位、記録、選手名、クラス、所属先、伴走者名、備考の順番

男子

1位	2:22:28	堀越 信司	T12 NTT西日本	T12 Asia Record
2位	2:37:34	岡村 正広	T12 RUN WEB	
3位	2:47:09	山下 慎治	T12 コロプラ 山口 遥・甲斐 大貴	
DNF		熊谷 豊	三井住友海上	

女子

1位	2:54:13	道下 美里	T12 三井住友海上 青山 由佳・志田 淳	T12 World Record
2位	3:09:48	藤井 由美子	T12 びわこタイマーズ 上島 学・武田 浩志	自己新
3位	3:10:32	近藤 寛子	T12 滋賀銀行 金子 太郎・川嶋 久一	自己新
4位	3:13:10	松本 光代	T13 JBMA	T13 World Record
5位	3:14:50	西村 千香	T12 岸和田健康クラブ 庄司 彰義・三野 貴文	自己新
6位	3:15:25	西島 美保子	T12 福井市陸協 溝渕 学・鍵 修一	



道下選手フィニッシュ(伴走者 志田)



世界新の道下選手と伴走者(左から道下、青山、志田)

(上記2枚撮影:星野恭子)

道下 美里 選手 コメント

2時間54分13秒 T12クラス 世界新

いつも応援ありがとうございます。今回のレースの目標は2時間52分台で世界記録を更新することでした。

39キロまでは予定通りにタイムを刻んでいましたが、風で思ったより体力を消耗していたためラストでペースダウンし2時間54分13秒でのフィニッシュとなりました。

ペースが落ちながらもがき、何とか最後まで諦めずに走れたのは、伴走者をはじめ記録更新を共に願う信じて応援していただいた皆様の後押しがあったからだと思います。本当にありがとうございます。

いいペースで39キロまで刻めたこと、世界記録更新宣言をして、記録更新ができたことは東京パラにむけて大きな自信となりました。

最後にこのような時期にもかかわらず、大会開催にご理解ご協力いただいたすべての皆様にご場をお借りして御礼を申し上げます。

(前ページからの続き)

堀越 信司 選手 コメント

2時間22分28秒 T12クラス アジア新

多くの方々のご尽力・ご理解により、レースで走る機会を作っていただき感謝しております。

貴重なレースで、大幅に自己ベストを更新することができたのはよかったです。また、少なからずパラスポーツの魅力をお伝えすることもできたのではないかと思います。支えてくださる皆様のおかげです。ありがとうございます。

ただ、終盤で失速し21分台には届かなかった点は、大いに反省すべきであると考えています。

パラリンピックで戦うにあたり、この課題をクリアしていかなければメダルには届きません。

もつと力をつけ、自信を持って本番のスタートラインに立てるよう、これからしっかりと頑張っていきたいと思いますので、引き続きご声援、ご指導のほどよろしくお願い致します。



堀越選手フィニッシュ (撮影:星野恭子)



堀越選手表彰式 (撮影:星野恭子)

東京2020パラリンピック 推薦選手

男子

- 第1位 堀越 信司(ほりこし ただし) NTT西日本
- 第2位 熊谷 豊(くまがい ゆたか) 三井住友海上
- 第3位 岡村 正広(おかむら まさひろ) RUN WEB
- 第4位 山下 慎治(やました しんじ) コロプラ

女子

- 第1位 道下 美里(みちした みさと) 三井住友海上
- 第2位 西島 美保子(にしじま みほこ) 福井陸協
- 第3位 青木 洋子(あおき ようこ) NTTクラリティ
- 第4位 藤井 由美子(ふじい ゆみこ) びわこタイムズ

行事日程

9月に延期となった2020東京パラリンピックの開催を実現させ、仲間の挑戦を全力で支えていきたいと思います。また、協会事業では、コロナの収束を願い、昨年開催を断念した多くの事業・行事を再開させましょう。

2021年度の事業計画は理事会での承認を待ちますが、例年に倣いコロナ収束を前提とした主要事業の日程案を掲載しますので、皆さまのご参加、ご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

- 3月20・21日 日本パラ陸上競技選手権大会(駒沢競技場)
- 4月18日 2021かすみがうらマラソン
- 4月24・25日 ジャパンパラ陸上(香川県屋島陸上競技場)
- 6月予定 定例総会・理事会
- 7月予定 第1回東京伴走者研修会
- 8月24日 東京パラリンピック開催
- 9月5日 東京パラリンピックマラソン種目実施
- 9月25・26日 伴走者・視覚障がい者研修(宿泊)
- 10月31日 第24回全国視覚障がい者駅伝(長居)
- 11月23日 第30回福知山マラソン
- 12月5日 第39回JBMAユニファイドラン(神宮)
- 12月19日 第52回防府読売マラソン
- 2月6日 第70回別府大分毎日マラソン

※上記の日程は、すべて予定です。

編集後記

思い起こせば、昨年のこの欄では、「東京パラリンピックイヤーの幕開け」とか、「令和の新しい時代を迎え、協会も心機一転、今年の事業に邁進して行く」との力強いメッセージを発信して新年を迎えたことを記憶しています。

そのことを思い返すと、如何にこの一年が協会はもちろん、皆さまにとっても、大変な激動のコロナとの闘いの一年であつたかと改めて思い知らされる日々です。

特に、協会事業活動では、多くの活動の中止、縮小、延期が余儀なくされ、会員の皆さまをはじめ多くの支援者、ご協力者の皆さまにも十分な活動の場を提供する事が出来ず、悔いばかりが残る日々が続きました。

しかしながら、その少ない機会の中で、決意を持って臨んだ「第38回JBMAユニファイドラン」では、感染防止を徹底し、参加者、関係者のご尽力もあつて、束の間のランニングライフを楽しんでいただけだものと確信しています。

コロナ禍においても協会活動を変わず支えていただいた多くの会員のみなさま、協賛企業、団体の皆さまへの感謝も忘れてはなりません。

本年はこのような状況下ではありますが、コロナ感染症の収束を目指しながら、開催を実現させたい東京パラリンピックへ出場する協会強化指定選手の大活躍を願い、会員の皆さまと共に多くの協会事業を復活させ、昨年やり残した多くの課題にも積極的に取り組める一年にできるよう準備を進めます。

多くの変革が求められるこの一年を、皆さま共々乗り越え、幸多き、素晴らしい一年で終えられますよう祈念し本号の編集を終えます。

皆さん！コロナに負けるな！そして改めて東京パラリンピックへの絶大なご声援もよろしくお願い致します！